

県中農林 ニュース

ひとつ、ひとつ、実現するふくしま

第36号

令和6年5月13日

編集・発行

県中農林事務所

○新任幹部職員紹介 P1～4

○農林関係の動き P4～9

○頑張る農林業者 P10

○なめこ料理 P11

○GAP取得者紹介 P12

○お知らせ P12



【写真：郡山市 磐梯熱海温泉ケヤキの森】

特集

新任幹部職員をご紹介します！



所長 ひろた まさゆき
廣田 雅幸

4月に県中農林事務所長に着任しました廣田雅幸です。

県中地方は初めての勤務となりますが、きゅうりやピーマンなど多くの野菜や果樹、肉用牛・酪農、椎茸等の生産のほか、コメの地域ブランド化、木材関連施設の立地、棚田等豊かな地域資源など、改めて県中地方の農林業の多彩さを感じています。

この「多彩さ」を生かし、当事務所では、「多彩なひと・もの・地域を育み未来へつなぐ、持続可能な県央の農林水産業」を基本目標に、生産力確保に向けた園芸産地育成、担い手の確保・育成、ほ場整備など生産基盤の整備、

林業継続のための森林再生の推進、阿武隈川遊水地群整備に伴う営農支援、地域資源を活用した地域振興や防災力向上等、農林業の復興・創生に向け様々な事業を展開しております。

引き続き、地域の皆様の声をお聞かせいただきながら取組を進めてまいりますので、職員一同、よろしくお願いいたします。



次長兼総務部長 むらこし 村越 かおり 香織

このたびの人事異動により、県中農林事務所次長兼総務部長に就任いたしました村越香織と申します。

農林水産部の公所への勤務は、10年以上前に農林総務課への配属があって以来2回目ですが、県中地方の公所への勤務は、他の部局の公所も含めて初めてです。

日頃食材を購入する際は、個人的には県内産が第一選択です。鮮度、食味、価格、いずれをもってしても、県内産に勝るものはありません。農林事務所に配属となり、県内で生産されている食材を口にすると、その素晴らしさと

ともに、生産者の方々、そして業務に関わる皆様の努力と思いの結晶であることを今まで以上に強く感じています。

事務所の業務に少しでも力になれるよう、今後とも努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

相双農林事務所双葉農業普及所より着任いたしました山田英雄と申します。

県中農林事務所農業振興普及部勤務は3年振り3回目、新採用で配属になった職場も郡山ということで非常に縁のある地域です。

県中地域は郡山、田村、須賀川とそれぞれの地域で特色ある農業を展開しており、農業産出額は県全体の1/4を占めています。また、園芸品目の産地育成や、田村市都路地区で整備中の大規模畜産農場など新たな動きも見られてきています。

福島県が「めざす」農業の姿を実現していくためにも、引き続き「ひと・もの・地域づくり」に邁進してまいります。



農業振興普及部
主幹兼副部長 やまだ 山田 ひでお 英雄



農村整備部長 ちば 千葉 ただし 正

4月に県中農林事務所農村整備部長に着任しました千葉正です。

出身は郡山市で、平成17年度から平成20年度までの4年間の勤務以来、二度目の勤務となります。当時は主に調査計画を担当し、現地に出向いてどんな事業メニューが一番合っているか、地域の将来像を描きながら、農業農村整備事業の取り組みを進めていました。

今後は引き続き、震災からの復興や生産基盤の整備を進め、ほ場整備事業や防災重点農業用ため池の整備などを中心に、県中地方の農業農村整備事業の進展に寄与できるよう精一杯取り組んで参りますので、よろしくお願いいたします。

県中農林事務所に着任しました佐藤治と申します。

県中農林事務所は14年ぶり2度目の勤務となります。

前回の勤務時は担当職員として、主に須賀川方面のほ場整備を担当し地元の農家の皆さんと一緒に、基盤整備を進めてきたことを思い出します。

現在、県中管内では14地区のほ場整備を実施しており「もうかる・誇れる」農業が実現できるよう関係機関と連携を密にし、少しでも良い生産基盤の整備ができるよう取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



農村整備部

主幹兼副部長 佐藤 治



森林林業部長 藤原 かおり

撮影場所：諏訪神社の爺スギ ばばスギ (小野町)

4月より、森林林業部長に着任しました藤原かおりです。県中地方は初めての勤務で土地勘もあまりないため、いろいろな話を聞きながら、フル回転で自分のデータベースに情報をインプットしているところです。

現場に出てみると、管内は想像以上に広大で、多様な地形や気候に比例して生産される農林産物もよりどりみどり。そのような中、木材関連の事業体が多く、素材生産等も盛んで、川上から川下まで動きがあるなあという印象を強く持ちました。今後は、森林・林業の情報発信を意識しながら、関係機関の皆さまと顔を付き合わせて様々な課題に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

田村農業普及所次長に着任いたしました星輝幸と申します。前任は、農業総合センター野菜科で試験研究に携わっておりました。

当地域は、阿武隈山系の豊かな中山間の特性を生かし、ピーマン等の園芸野菜やエゴマ、ブルーベリーなど様々な作物が栽培され、畜産も盛んな特色ある産地です。

田村地域の農業振興のため、農業担い手の確保・育成及び産地の持続的発展に、皆様とともに精一杯取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



田村農業普及所

次長兼地域農業推進課長 星 輝幸

このたび、須賀川農業普及所長に着任しました、橋本伝示と申します。

須賀川・石川地域は、3年ぶり3回目の勤務となります。

当普及所管内は、きゅうり・ナシ等の園芸品目の生産や、各地区で取り組まれている特色ある米づくり、和牛繁殖経営など、県中農林事務所管内（郡山地域、田村地域、須賀川・石川地域）でも農業生産が活発な地域です。

近年は、新規就農者も増加しつつあることから、担い手の確保・育成を基軸に生産体制の維持強化を図るとともに、地域ならではの魅力を発信することにより、地域農業のさらなる発展に貢献できるよう取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願ひします。

また、今年度末は、地域計画の策定期限となっています。当所としても、地域の意向が反映された計画が策定されるよう、関係機関・団体の皆様と連携して地域での話し合いを支援して参ります。



須賀川農業普及所長

はしもと 伝示
橋本 伝示

県中農林事務所管内において初めてみどり認定を受けました！

【須賀川農業普及所】

1月17日（水）付で須賀川市水稻農家の和田晃司^{わだこうじ}さんがみどり認定を受けました。みどり認定とは、みどりの食料システム法に基づき、環境負荷低減に取り組む農林漁業者を県が認定する制度です。和田さんは側条^{そくじょう}施肥^{せひ}田植機^{ひき}の導入や密苗栽培^{みつなえ}の実施、深水管理で雑草の発生を抑えることにより、化学肥料・化学農薬の低減と作業効率化の両立を目指しています。和田さんは交付式後に「今後の農業経営ではエコファーマーとして体験型農業、ネット販売、ネット上で農業に興味を持った方々との交流イベントを行っていきたい。」と話していました。



【1月25日（木）みどり認定交付式を須賀川農業普及所会議室で行いました。

左側：大橋前所長、右側：和田晃司氏】



令和5年度郡山市指導農業士会研修会が開催されました

【農業振興普及部】

3月6日（水）、郡山市指導農業士会の研修会が、株式会社なかた農園にて5年ぶりに開催され、会員7名と関係機関3名が参加しました。この研修会は、優れた農業経営者の講話をお聞きするなど経営発展に役立てるために開催されています。

株式会社なかた農園は、水稻栽培に加えて、郡山市内ほか浪江町や富岡町で青ネギと一本ネギを組み合わせた周年出荷を経営の柱としており、代表取締役の中田幸治なかだこうじ氏の、法人として「人材の成長=会社の成長」であるという話は、農業を発展させていく上でとても興味深い内容でした。

農業振興普及部では、今後とも農業士の皆様の相互の連携と資質向上のため、郡山市指導農業士会の活動を支援してまいります。



【経営の話を熱心に聴く会員】

林業アカデミーふくしま就業前長期研修第2期生の修了式を執り行いました

【林業研究センター】

林業アカデミーふくしま就業前長期研修第2期生の修了式が、3月8日（金）、佐藤宏隆さとうひろたか副知事の出席のもと執り行われ、14名の研修生がそれぞれの志望した事業体、森林組合に就業しました。

研修生代表の渡辺諒豊わたなべりょうとさんより答辞があり、「考えることを止めず、さらに発展させ、福島のエコに貢献できるよう励んでいく」と決意表明がありました。

アカデミーを修了した研修生の皆さんは、今後、福島県の林業の中核を担う存在として活躍することが期待されます。



わたなべりょうと
【渡辺諒豊さんによる答辞】



【第2期生14名が研修を修了しました】

福島県山火事防止県中地区担当者連絡会議を開催しました

【森林林業部】

3月8日（金）に、令和6年福島県山火事防止県中地区担当者連絡会議を開催し、山火事防止に向けた意見交換や取組に係る意識の共有を図りました。

令和5年に管内で発生した山火事は、3月に郡山市中田町で発生した大規模な林野火災を含め26件となっており、令和6年は既に9件の林野火災報告があります。

出火原因のほとんどが火入れなど人為的なものです。一人ひとりの意識が山火事を防ぐことにつながりますので、枯れ草などの近くでのたき火、強風及び乾燥時の火入れ等を行わないようにお願いします。



【会議の様子】



【啓発用ポスター】

令和6年度県中地方防霜対策本部を設置しました

【農業振興普及部】

県中農林事務所では、農作物の凍霜害を未然に防止するため、3月18日(月)に県中地方防霜対策本部を設置し、関係機関と連携して気象情報の迅速な収集と伝達、凍霜害防止に向けた技術対策の啓発を行っています。

防霜対策期間は常に気象情報に注意を払い、凍霜害発生が予測される場合は燃焼資材等による対策の実施をお願いします。



【防霜対策本部看板設置の様子
(左から半沢部長 小久保前所長)】

(参考)凍霜害が発生しやすい気象条件

- 降雨後で肌寒い北寄りの風が吹く。
- 夕方になり風が止む。
- 夜になり晴れ上がり、雲がなく、星が輝き、底冷えする。

3月22日（金）、JA福島さくらたむら統括センターにて「ピーマン施設栽培指導会」が開催され、ピーマンの施設栽培に取り組む生産者17名が参加しました。

管内では、JAの「園芸ギガ団地構想」により、ピーマンの施設栽培の導入が進んでいます。施設栽培における安定生産を目指して、令和6年3月に、JA福島さくらと普及所で「施設ピーマン栽培指針」を作成しました。

指導会ではこの指針に沿って、露地栽培との違いを中心に、施設栽培の栽培技術や土作りについて普及所から説明しました。

参加者からは、病虫害防除やかん水方法についての質問があり、積極的に自らの栽培技術のスキルアップを図ろうとする姿が見られました。



【指導会の様子】

森林パトロール協議会を開催しました

【森林林業部】

4月1日（月）、保安林や^{けんこう}県行造林地における巡視業務を担う方々に辞令を交付しました。

また、辞令交付に続いて、令和6年度県中地方森林パトロール協議会を開催し、巡視活動における留意事項について伝達するとともに、情報交換を行いました。

昨年も巡視員をしていた方からは「今のところ、巡視中に熊などに遭遇したことはない。」との話がありましたが、安全確保を第一に巡視をお願いしたところです。

管内5名の巡視員には、これから1年間をとおして林木の生育状況を観察したり、森林の無断開発の早期発見のために情報を収集する等、巡視活動を行っていただくこととなります。

県では巡視員からの貴重な情報をもとに、管内の保安林や県行造林地等の適正な保全管理に取り組んでまいります。



【森林保全巡視員辞令交付式】



【森林保全パトロール協議会で情報共有・意見交換】

林業アカデミーふくしま就業前長期研修第3期生の入講式を執り行いました 【林業研究センター】

4月5日（金）に林業アカデミーふくしま就業前長期研修第3期生の入講式が、佐藤宏隆副知事や西山尚利県議会議長の出席のもと執り行われ、14名の研修生が新たに林業の世界に飛び込みました。

西山議長からは「仲間達と切磋琢磨し、本県の林業をリードする人材に成長することを期待する」と言葉があり、研修生は真剣な眼差しで、話に耳を傾けていました。

研修生はこれから1年間かけて、林業に必要な知識、技術などの習得を目指します。



【研修許可書及び研修貸与品交付】



【第3期生14名が入講しました】

こおりやま園芸カレッジ入校式が開催されました 【農業振興普及部】

4月9日（火）に郡山市園芸振興センターにて、こおりやま園芸カレッジの入校式が開催されました。

こおりやま園芸カレッジは、野菜や花などの園芸作物で就農する意欲ある農業者を育成するため郡山市が行っている長期研修プログラムです。令和6年度は鈴木隆広さんと二瓶梨絵さんの2名が入校し、1年間、園芸作物の栽培技術や経営管理を学びます。

農業振興普及部では、郡山市園芸振興センターと連携して、2名の円滑な研修の実施と就農の実現を支援してまいります。



【鈴木さんによる決意表明】



【入校式集合写真】

令和6年度 JA 夢みなみ園芸振興大会が開催されました！【須賀川農業普及所】

4月9日（火）、JA 夢みなみ主催による JA 夢みなみ園芸振興大会が営農経済本店で行われました。JA 夢みなみ管内の生産者や関係機関等、196 名が出席し、JA 夢みなみにおける園芸作物の生産振興や販売に貢献された生産者へ県から福島県知事賞、JA から感謝状、優秀賞、優良賞、功労賞、特別功労賞が送られました。県中農林管内では 32 名もの生産者が受賞しました。また、管内の園芸品目の現状や営農支援体制、令和 6 年度販売対策及び販売計画、生育状況について検討後、大会スローガンが決議されました。



【県中農林事務所廣田所長より福島県知事賞を授与している様子】

【園芸振興大会スローガン】

「農業販売高の拡大・所得の向上」と「農業生産基盤の拡充」を最重点に取り組みます。

「食と農を基軸とする地域に根差した活動」と「不断の自己改革」を実践し、「選ばれるJA」を目指します。

生産基盤の強化を図り、「夢みなみグループ全体で園芸・直販事業販売額 80 億円を目指そう。」

基幹品目の振興と安定生産基盤構築の為、各種補助事業を積極的に活用し、「ふくしま園芸ギガ団地」構想に取り組みます。

東日本大震災から 13 年、藤沼ダムの防災対策について取材を受けました

【農村整備部】

4月16日（火）、農村整備部では、東日本大震災で決壊し、甚大な被害を及ぼした藤沼ダムでテレビ取材を受けました。取材では決壊の原因究明、再建に向けダムの在り方について話を重ねたこと、決壊の要因を排除すべく徹底した施工・品質管理を行い完成に至った経緯、このほか、震災を教訓とし、追加された施設や機能及び現在の防災体制などを伝えました。悲しい過去を忘れず、いつ起こるか分からない自然災害に対する備えを継続していく必要性を伝え、安心・安全の確保に努めてまいります。



【取材の状況】



【藤沼ダムの古い写真】

頑張る農林業者さん

★ 巨大なめこ工場「(株)ベルッコ」取材しました ★

郡山市西田町^{おにうだ}鬼生田にある「株式会社ベルッコ」を訪問し、なめこ栽培について^{わたなべあきら}渡辺 章 工場長にお話を伺いました。

ベルッコの工場は平成30年から稼働を開始し、現在1日あたりなんと約1トンのなめこを生産しています。栽培の工程は、おがくずや米ぬか等で培地を作り、なめこの菌を植菌し、約3ヶ月培養ののち湿度の高い発生室でなめこの発生を待ちます。

ベルッコでは1つの培地から2回収穫しており、1回目の収穫は株どりなめこ、2回目収穫がジャンボなめことして出荷されます。このジャンボなめこは食べ応え抜群の大きさです。



【1回目収穫前(株どりなめこ)】



【ジャンボなめこ】

課題や栽培の難しさを伺ったところ、株どりの判断などは技術も伴うので、熟練し長く働ける方の雇用の確保が大変だそうです。また、ジャンボなめこは1回目収穫後、凹凸の出来た面から発生するので収量の予測が出来ないとのこと。その時のおがくずの質などにより培地の含水率を微調整するのですが、この調整がなめこの発生を左右するのでまさに職人技です。

培地は1日約1万3千本も生産するそうで、収穫を終えた膨大な培地の処理はどうしているのだろうと気になりましたが、系列である鈴木農園さんのほ場の有機肥料として循環利用しています。



【培地作成中の渡辺工場長】



【植菌を終え培養中の培地】

現在、ジャンボなめこを使った新たな商品を開発中とのこと。聞いたときは「なめこをアレに出来るの？」と驚きました。ネタバレになるので内容は伏せておきますが、店頭に並ぶのを楽しみにお待ちください！

いろいろあるよ！なめこ料理

なめこ料理といえば、味噌汁やおろし和えが一般的ですが、それだけではもったいない。県中地域のなめこ生産量は県内でもダントツ！ぜひいろいろ楽しんでください！

♪なめこのポン酢漬

なめこをさっとゆでて、ポン酢に漬けるだけ。組み合わせのバリエーションはいろいろ。ポン酢の代わりに、好みのドレッシングに漬けてもおいしいですよ。

【左：大根おろし+しらす】

【中央：豆腐+かつおぶし+柚子胡椒】

【右：ところてん+青のり+辛子】



♪麻婆なめこ

麻婆豆腐の最後になめこを加えるだけ。つるりとのどごしが良く、これからの季節、夏バテしそうな時にもオススメ。どんぶりにしたら、ご飯がいくらでもいけちゃいそう。



♪なめこそばいなり

なめこをしょうゆでさっと煮て、蕎麦と一緒に油揚げ（市販のいなり寿司用）に詰める。トッピングの天かすと青ネギがアクセント。日本酒のアテにもぴったり。



【監修：野菜ソムリエプロK】



ふくしまを応援する『ベコ太郎』

GAP 取得者紹介

① 取得者名(市町村) ② GAPの種類(取得した品目) ③ 取得者から一言

- ① 株式会社 福島タネセンター (須賀川市)
- ② FGAP (青果物 (きゅうり))
- ③ ハウス内物品の整理や、労務環境の改善などを見直すことができ、取り組んで良かった。今後も継続して食品安全・労働安全等に取り組んでいきたい。

- ① ^{やまだ こうみ}山田 耕見 (石川町)
^{いずみ としお}泉 利夫 (石川町)
有限会社 ^{おおしま}大島 (石川町)
- ② FGAP (穀物 (米))
- ③ 「福、笑い」を作付けし、おいしいお米を作ることで、地域の活性化に貢献していきたい。



【左から

^{はしもとかつよし}株式会社福島タネセンター (橋本克美氏)、有限会社 大島
^{おおしまいち}(大島多市氏)、橋本須賀川農業普及所長、泉利夫氏、山田耕見氏】

GAPの種類

- ・ GLOBALG.A.P 国際的に広く適用する第三者認証 GAP
- ・ ASIAGAP 日本発の国際基準認証
- ・ JGAP 日本のデファクトスタンダードの GAP
- ・ FGAP 福島県による公的認証 GAP

おらせ

「食育」の先生を派遣します！！

子どもから大人まで、あらゆる世代で心も体も健康に過ごすために必要なものとして、今「食育」が重視されています。「食育」とは、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものです。

県では、子ども等を対象とした食育活動に取り組む学校や地域団体等からの要請に応じて、「ふくしま食育実践サポーター」を派遣しています。サポーターには、農業者、野菜ソムリエ、調理師、などさまざまな分野の方が登録されています。派遣先としては、幼稚園・小学校・中学校・公民館などが多く、講演会・料理教室・農作業体験など活動も多岐にわたります。

県中農林事務所のホームページに詳細や事例等を掲載しておりますので、ご興味のある方は是非ご覧ください。

お問合せはこちら

【編集・発行】

福島県県中農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒963-8540

郡山市麓山一丁目1番1号

ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36220a>

TEL 024-935-1510 FAX 024-935-1314



【地元の郷土料理を作る子どもたち】